

三叉神経 (V), ガッセル神経節, 眼神経, 上顎神経

三叉神経 (脳神経 V, N. trigeminus)

解剖

橋から出る混合性の神経である。知覚部分は半月神経節 (Ganglion Gasseri) にニューロンを有し、中枢への線維は橋に入り、三叉神経知覚核 (触覚), 中脳核 (固有感覚) へ終り、また一部は下行して脊髄路核 (温・痛覚) へ終る。特に脊髄路核は体節性配列を示し、上方部は口の周囲を支配し、下方へ行くにつれ玉ねぎ状の配列を示す。

これらの脳幹の知覚核から出た二次ニューロンの線維は上行し視床に終る。

三叉神経は知覚性部分 (大部 portio major), 運動性部分 (小部 portio minor) に分れる。

半月神経節から三つの枝が出る。すなわち、①眼神経, ②上顎神経, ③下顎神経である。小部は半月神経節の形成に関与せず、その内部を通り下顎神経に入る。

①眼神経 (N. ophthalmicus): 眼窩, 前額部, 髄膜, 副鼻腔, 鼻腔の一部などの知覚を司る。視覚と関係なく, 視神経と誤らないことが大切である。

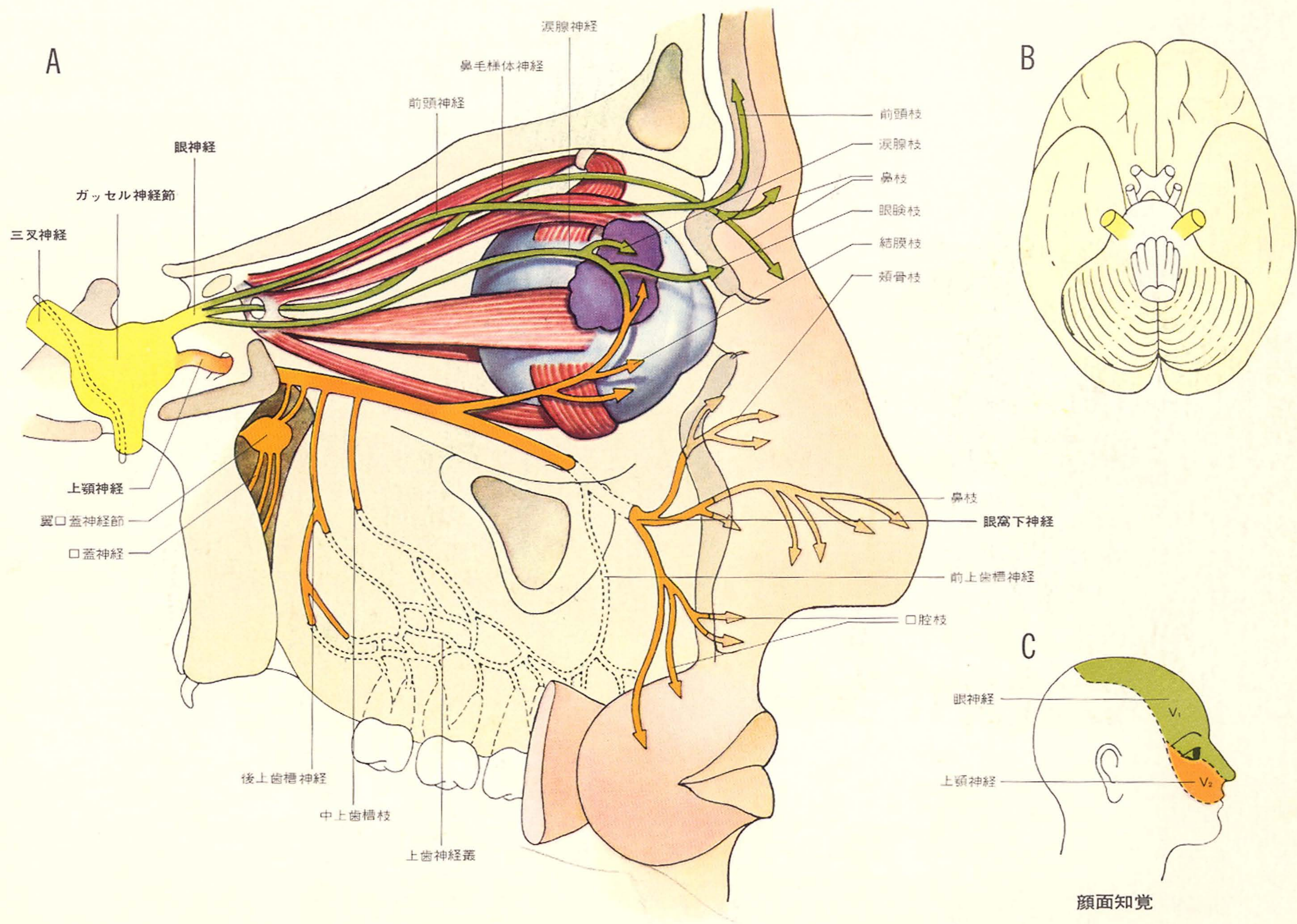
②上顎神経 (N. maxillaris): これも第1枝と同様知覚性で, 図Cの如く上顔部の皮膚, 口蓋, 上蓋部の粘膜 (歯髄を含む) へ行く。また脳硬膜へも分布する枝がある。

眼窩下神経 (N. infraorbitalis) は上顎神経の中で最大のもので下眼窩裂から眼窩に入り, 眼窩下管を経て眼窩下孔から顔面に現われ, 上顔部の皮膚と粘膜に分布する。

翼口蓋神経は本幹から下方に分れ, 口蓋に到り, 翼口蓋神経節 (Ggl. pterygopalatinum) に接続する。これは大錐体神経 (VII) と深錐体神経 (交感神経枝) の合同した翼突管神経をも受けており, 涙腺の分泌などを司る。

検査

1. 顔面の知覚検査 (上, 中, 下の末梢性分布を示すか, 玉ねぎ状の中枢性分布を示すか?)。
2. 各神経の出口における圧痛。
3. 角膜反射。
4. 運動枝の検査 (次に述べる)。
5. 咬筋反射 (次に述べる)。



顔面知覚